

平成 16 年度 海岸高潮対策委託（環境基礎調査） 調査結果

1. 目的

本業務は千葉県の示す方針に従い、市川海岸市川市塩浜地先の生物調査を行うとともに、護岸改修にあたっての諸条件を検討し護岸設計の基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査場所

市川海岸 市川市 塩浜（図-1 参照。）

3. 調査実施期間

秋季調査：平成 16 年 11 月 26 日～11 月 30 日
 冬季調査：平成 17 年 2 月 7 日～ 2 月 10 日
 春季調査：平成 17 年 5 月 23 日～ 5 月 27 日
 夏季調査：平成 17 年 7 月 19 日～ 7 月 23 日

4. 調査機関

調査計画機関：千葉県葛南地域整備センター
 調査実施期間：国際航業株式会社

5. 調査項目及び数量

調査項目及び数量等について表-1 に示す。

表-1 調査項目及び数量

調査項目	数量及び内容	調査手法等
海生生物調査	潮間帯生物採取：(4 箇所/測線) × 5 測線 = 20 箇所 50 cm × 50 cm 方形枠による枠取り採取。 種の同定、種別個体数(湿重量)の計数等	潜水士による枠取り定量採取。
	大型底生生物 目視観察：5 測線， 測線延長 2,400m 観察間隔：原則 10m ピッチ 観察項目：底質、海草藻類、貝類、甲殻類、底生魚等を対象。アサギ等の生息孔も対象とする。	(1) 秋季及び冬季 潜水士による潜水目視観察 (2) 春季及び夏季 最干時に実施。干出箇所については、ライントランセクト法による目視観察。水深が深い箇所については、潜水目視観察。
その他測定	粒度試験： 底質採取：(3 箇所/測線) × 5 測線 = 15 箇所	JIS A 1204(ふるい分け及び沈降試験)
	水温・塩分測定： (2 箇所/測線) × 5 測線	水温塩分計による機器測定

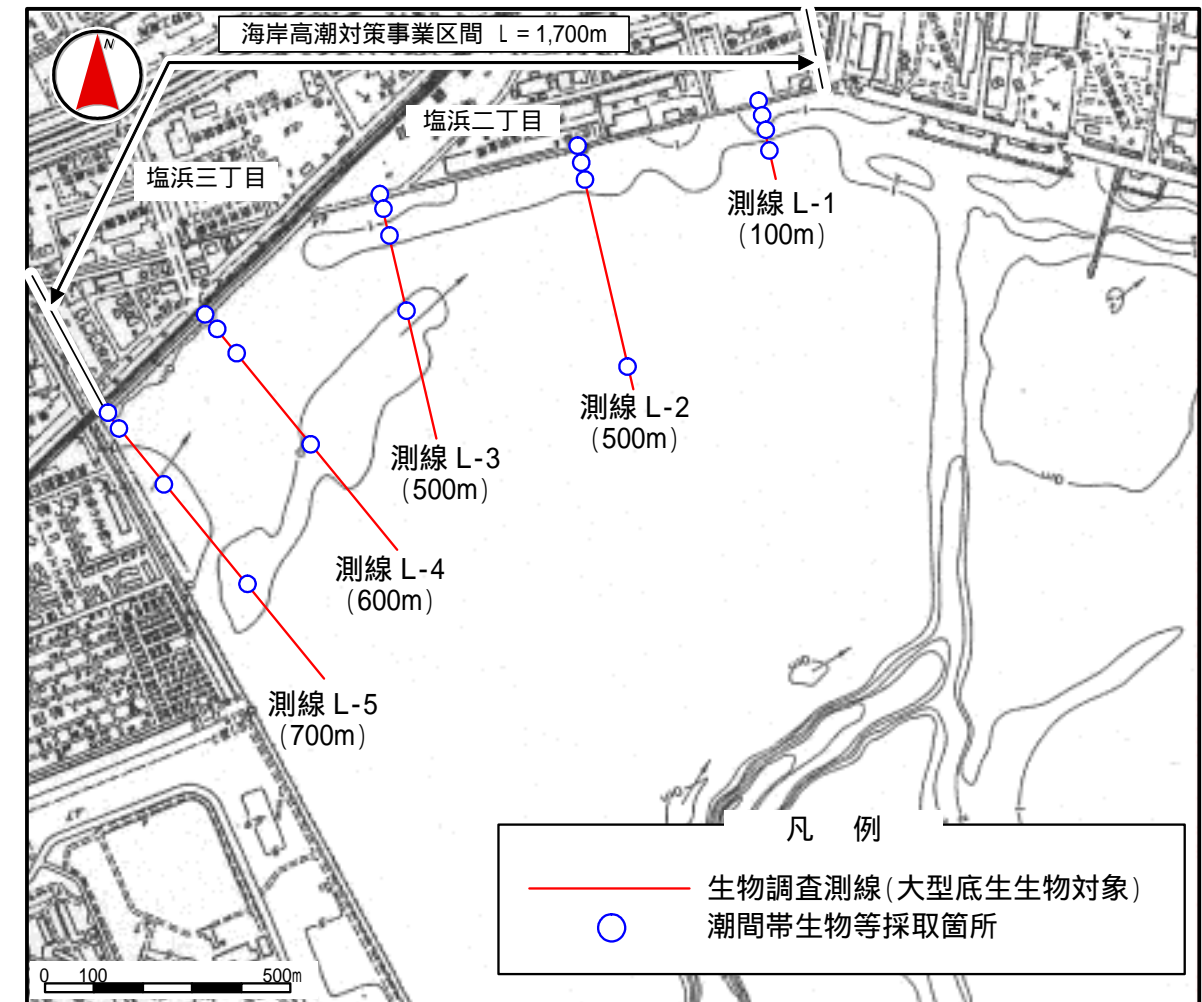


図-1 調査位置

6. 調査結果

秋季、冬季、春季、夏季の 4 時期の調査結果より、海生生物の生息基盤となる海底地形・底質の分布状況と、海草藻類及び底生動物の生育・生息分布状況等を総括し、調査対象海域の海生生物の棲み場（＝ハビタット）を、以下に示す 6 種類に区分した。（図-3 市川塩浜海岸環境情報図を参照。）

調査対象海域のハビタット区分

ハビタットの区分	ハビタットの内容	ハビタットを指標する生物
護岸直下	塩浜 2 丁目から同 3 丁目に連続する直立護岸直下の捨石上に形成されたハビタット。表面はマガキに厚く被われる。カキ殻の間隙は巻貝類やカニ類の棲み場として利用されている。	タマキビガイ、マガキケフサイソガニ、イシガニ等
滞筋底部	塩浜 2 丁目前面に伸びる滞筋の底部。水深は約 1.5～2m。浮泥が厚く堆積し、水中は濁りが強い。他のハビタットに比較して大型底生生物の種類数は少ない。	多毛類、ミノウミウシ類
泥干潟	猫実川河口前面を中心とする。標高は低く、大潮最干時に干出するが、年間の干出時間は約 40 時間程度。底質はシルトからなり、アナジャコ、ヤマトオサガニ等が生息する。	ウミゴマツボ、イトゴカイ属、アナジャコ、ヤマトオサガニ
シルト域	岸部に平行に分布する。底質は主にシルト。サルボウガイ、アカガイに代表される。	サルボウガイ、アカガイ
砂底域	シルト域の沖合に広がる。底質はシルト混じりの細砂。アオサの濃生域を含む。シオフキガイ、バカガイに代表される	シオフキガイ、バカガイ
カキ礁	猫実川河口部の沖合に位置するカキ礁。最大のもので面積約 5,000 m ² 。カキ殻の間隙は巻貝類、小型甲殻類の棲み場として利用されている。	タマキビガイ、アラムシロガイ、マガキ、ケフサイソガニ



航空写真撮影年月日:平成17年5月26日12:40 撮影時潮位:約A.P.-23.4cm
 写真提供:国際航業(株)

図-2 市川塩浜海岸現況図